

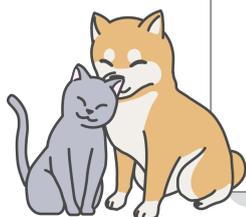
「災害時 ペットを守るために」

～ 鍛えよう! 飼い主力と防災力～



講師 ▶ 平井潤子 先生

特定非営利活動法人ANICE(アナイス) 代表
公益社団法人 東京都獣医師会 顧問
公益社団法人 日本獣医師会 危機管理室 統括補佐



日本で発生した数々の災害に学び、我が家の対策を整えていきましょう。
この講演では、被災地の動物達と飼い主の様子を写真で紹介しながら、
ペットを同行しての避難の課題や、被災地・避難所で生じたアクシデント、
また好事例など、これからの備えに役立つ情報を提供します。

日時 ▶ 令和7年 10月8日(水)

午後2時30分から午後4時30分
受付開始 2時 4階ロビー

会場 ▶ 秋田キャッスルホテル

4階 放光の間
秋田市中通一丁目3-5



対象 ▶ どなたでも参加できます 参加費 無料

一定の人数に達した場合は、入場できませんのでご了承ください

お問合せ ▶ 公益社団法人 秋田県獣医師会 大会・学会事務局

TEL 018-832-2216

ホームページ右上  メールフォーム からお問合せください▶



市民公開特別講演

演 題 災害時 ペットを守るために
～ 鍛えよう！ 飼い主力と防災力～

講 師 特定非営利活動法人 ANICE（アナイス） 代表 平 井 潤 子 先生

講師プロフィール

NPO 法人 ANICE（アナイス） 理事長
公益社団法人 東京都獣医師会 顧問
公益社団法人 日本獣医師会 危機管理室 統括補佐
環境省「人とペットの災害対策ガイドライン」編集委員 他

【略歴：これまでの取組み・活動内容等】

三宅島噴火災害（2000年発災）での支援活動をきっかけに、NPO 法人を立ちあげ、ヒトと動物との同行避難や災害対策に関する調査、救護活動を開始。

自治体が行うペット災害対策や避難所運営に関する助言やマニュアルの監修・訓練等に協力する他、環境省が実施する訓練等のプランニングや、アドバイザーを担当。発災時には、被災地獣医師会や自治体が設置する対策本部運営支援等に従事。



■調査・支援活動歴

三宅島噴火災害（2000年）・新潟県中越大震（2004年）・福岡県西方沖地震（2005年）・能登半島地震（2007年）・新潟県中越沖地震（2007年）・岩手宮城内陸地震（2008年）・東日本大震災（2011年）・長野県北部地震（2011年）・伊豆大島台風26号（2013年）・熊本地震（2016年）・西日本豪雨災害（2018年）・令和元年東日本台風（2019年）
福島県沖地震（2021年）・能登半島地震（2024年）・大船渡森林火災（2025年）等
欧州・アジア諸国における災害時動物保護活動に関する現地調査

■その他活動歴

全国での講演活動の他、ペット防災関連書籍やウェブサイトの監修・執筆「ペット防災BOOK」（東京都獣医師会）・「決定版 猫と一緒に生き残る 防災BOOK」・「決定版 犬と一緒に生き残る 防災BOOK」監修（辰巳出版）・「ねことわたしの防災ハンドブック」・「いぬとわたしの防災ハンドブック」監修（PARCO 出版）・「ペット防災の基本BOOK いっしょに逃げてもいいのかな？」監修（LEONIMAL）等

講演要旨

日本は「災害大国」と呼ばれるほど、これまで幾度も自然災害に見舞われ、被災経験を積み重ねてきました。

2,000 を超える活断層を抱える日本列島では、長らく地震への備えが中心でしたが、近年は台風の大規模化や線状降水帯による豪雨が頻発し、その被害の規模と頻度の増加が深刻な課題となっています。

こうした気象災害の背景には、地球温暖化による海面水温の上昇や、大気中の水蒸気量の増加があり、これが台風の勢力拡大や線状降水帯の多発につながっていると指摘されています。

「One Health (ワンヘルス)」とは、「人の健康・動物の健康・環境の健全性は互いに結びついている」という理念です。もし自然環境の変化が災害を大きくしているのであれば、私たち一人ひとりにも、今日からできる災害被害の軽減策があるはずです。

また、災害による被害を減らすためには、防災意識を高め、日ごろから備えることが欠かせません。

特に、家族の一員であるペットを守るためには、飼い主が平時から準備を整えておくことが重要です。

本講演では、日本各地の災害現場で実際に起きた「飼い主とペットをめぐるトラブル」や、「工夫によって困難を乗り越えた事例」をご紹介します。

これらを参考に、災害を生き抜き家族を守るための「防災力」、そしてペットを守り、被災地で社会に迷惑をかけないように適切に管理する「飼い主力」を高めていただきたいと思います。

ペットの災害対策は、単なる飼い主個人の取り組みにとどまらず、ペットの社会的地位を高める大切な視点でもあります。

災害に備え、飼い主責任のもとで避難対策を整え、社会に対して責任ある姿勢を示すことは、モラルの高い飼養管理につながります。

その積み重ねが、ペットの社会参加のハードルを下げたり、補助犬への理解を深めたりすることにもつながるでしょう。

つまりペット防災は、飼い主や動物関係者だけの課題ではなく、社会全体で取り組むべき重要なテーマなのです。